

平成24年度委員会活動報告

看護部褥瘡対策委員会

塚本 敏子 後藤加代子 平松 伴乃 日比 佳子
鈴木かをり 江川 有子 横山智津恵 三浦早紀子

【はじめに】

褥瘡発生率を低減させるためには、褥瘡予防用具の適切な選択や使用により予防環境を整備し、体圧分散やずれ対策に関する適切なケアが実施できることが必要である。スタッフがこれらのケアに対して関心を高め実施できるように行った取り組み内容について報告する。

【方法】

1. 体圧分散寝具の効果を低減させるリネンの使用を減らすために、1)バスタオル・横シートの使用状況確認(7・9・12月)、2)不要なリネンを外すキャンペーンの実施。
2. ずれ対策として移座えもんを効果的に使用できているかを確認するため、1)リンクナース会で使用方法の伝達、2) 移座えもんの保有・使用状況の調査(7・12月)、3)不足分の一括購入を実施。
3. スタッフの褥瘡対策に関する意識と知識レベルを確認するため、知識テスト&アンケートを実施(12月)。

【結果・考察】

バスタオル・横シートの使用状況は、当初は必要性をアセスメントせずにルーチンで使用し

ている例が多かったが、回を重ねるごとにその比率は減少していった。これは、リンクナース会やキャンペーンで周知した効果が得られたものと考えられ、今後も継続に期待したい。移座えもんは過去の研修でも使用方法の周知などを行ってきたが、実際には活用できていない部署が多く、日常生活自立度の低い(B・C)患者全員のケアに活用するには不十分な充足状況であった。一括購入を行うことで充足状況は改善したが、効果的な使用を継続できるよう、継続学習が必要であると感じた。知識テストの結果は、全体の平均点は10点満点中6.9点であった。部署によって問題ごとの正答率にバラつきがあることから、各部署にフィードバックし、重点課題として来年度の取り組みに活かしてほしい。今年度委員会で取り組みを行った内容に関する問題は、いずれも正答率が高かったが、褥瘡ハイリスク患者ケア加算に関する正答率は平均以下であり、この点については委員会を中心に次年度に取り組む必要があると考える。

【まとめ】

体圧分散寝具の適切な使用方法や背抜きなどのケアが確実に実施されるよう、今後も取り組みを継続していく必要がある。

